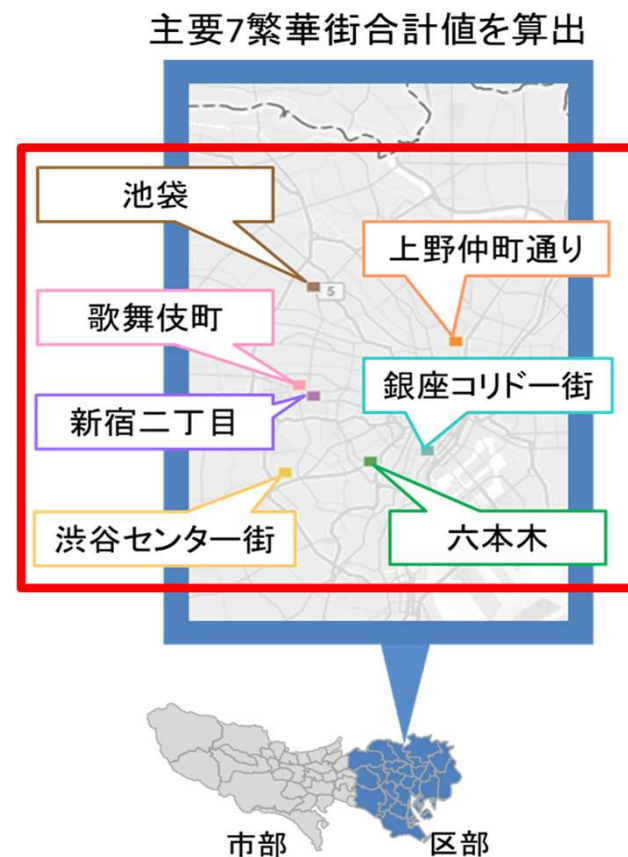


都内主要繁華街における 滞留人口モニタリング

東京都医学総合研究所
社会健康医学研究センター
西田 淳志

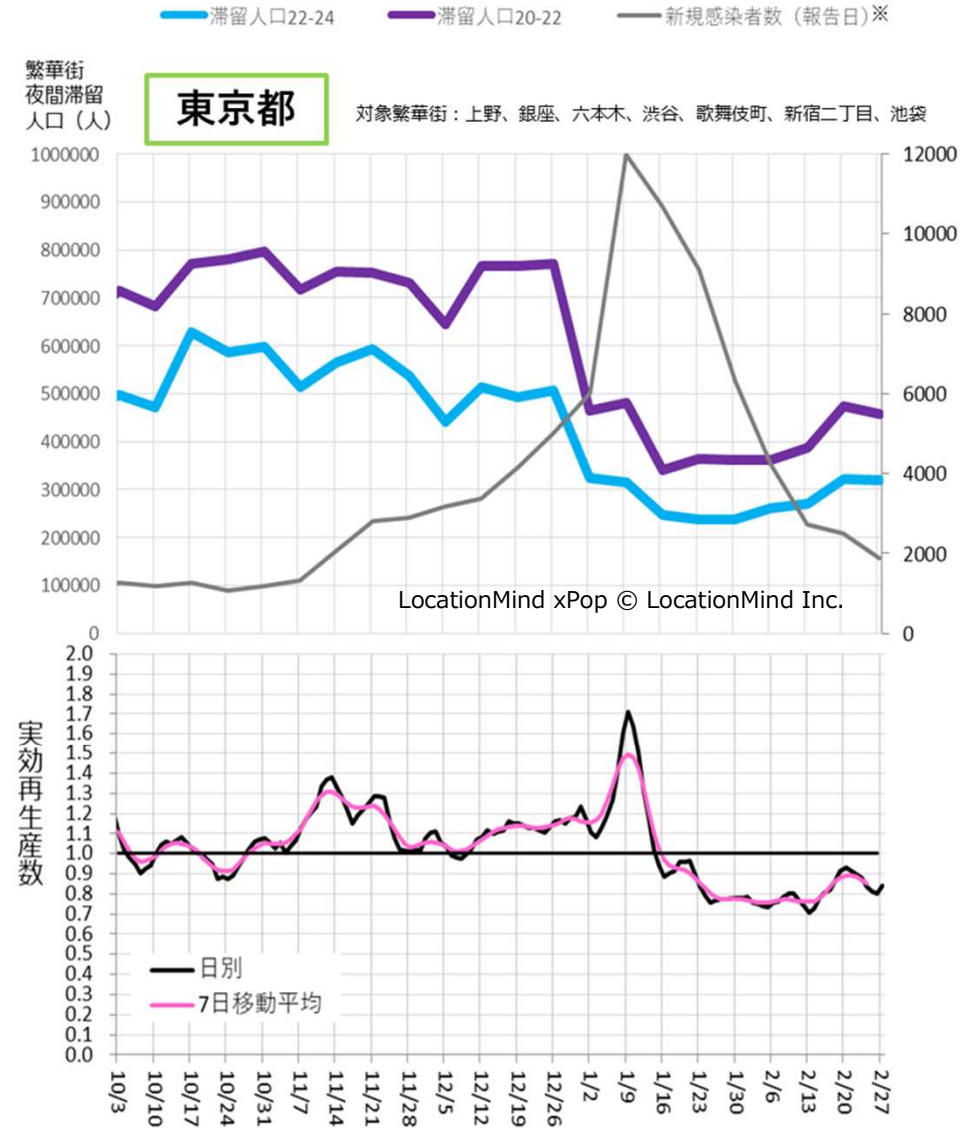
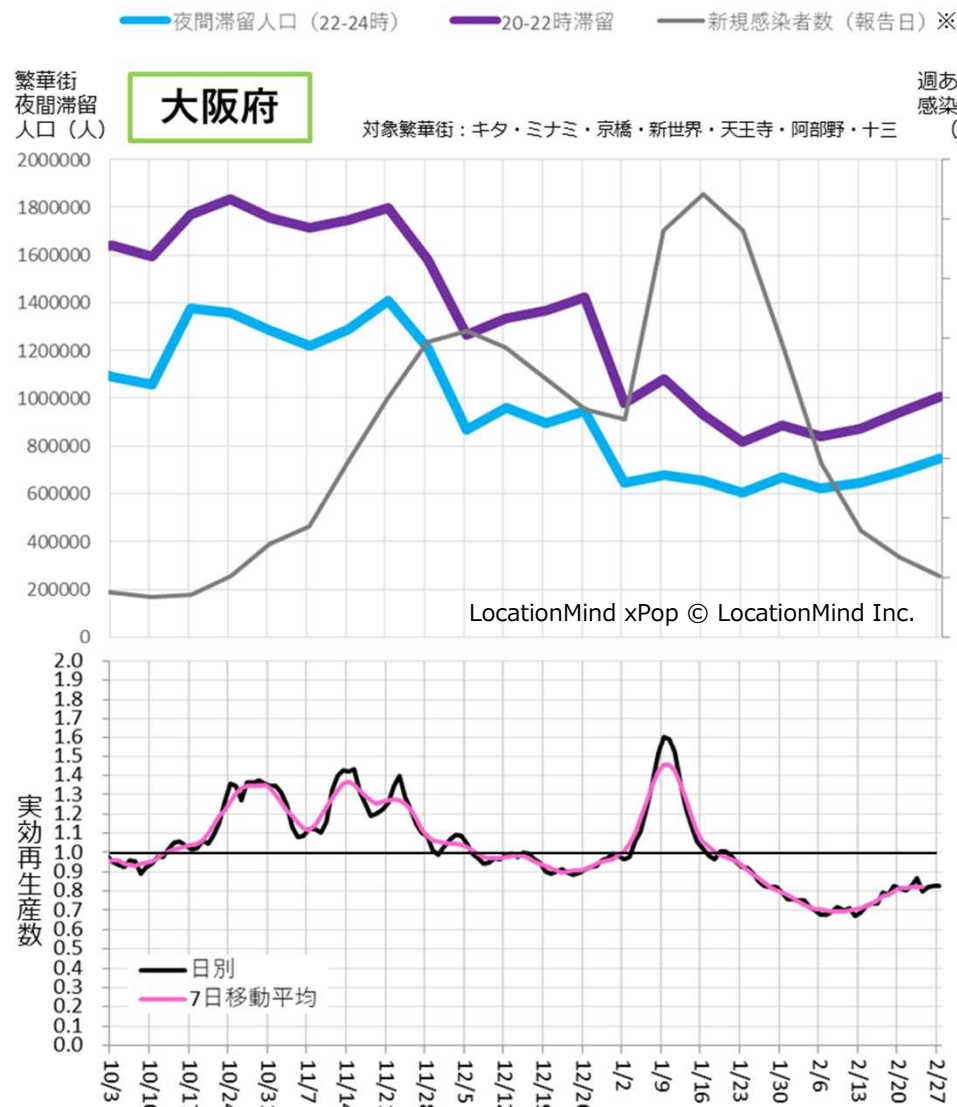
ハイリスクな人流・滞留を正確にとらえる

- GPSの移動パターンから**レジャー目的の人流・滞留を推定** ※
- **主要繁華街**にレジャー目的で移動・滞留したデータを抽出
- ハイリスクな時間帯の人口滞留量を
1時間単位で推定(500mメッシュ単位)
- LocationMind ⇒ 都医学研 ⇒ 東京iCDC



※GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後、
職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

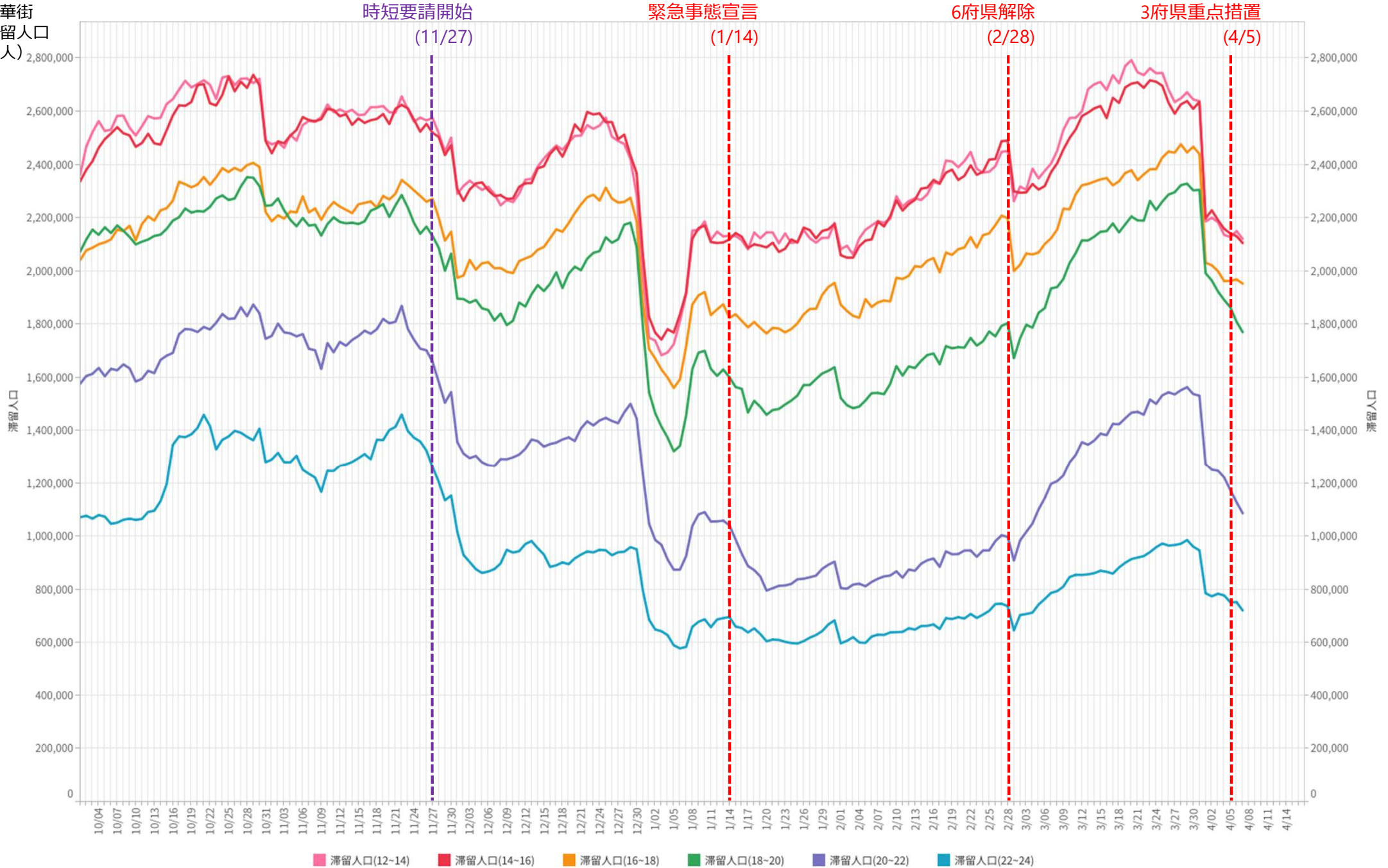
【第3波時】夜間滞留人口が減少に転じてから 感染者数がピークアウトするまでのタイムラグ



■ 人流が減少に転じてから約2~3週間は、感染者数は増加し続け医療を圧迫した（東京・大阪）

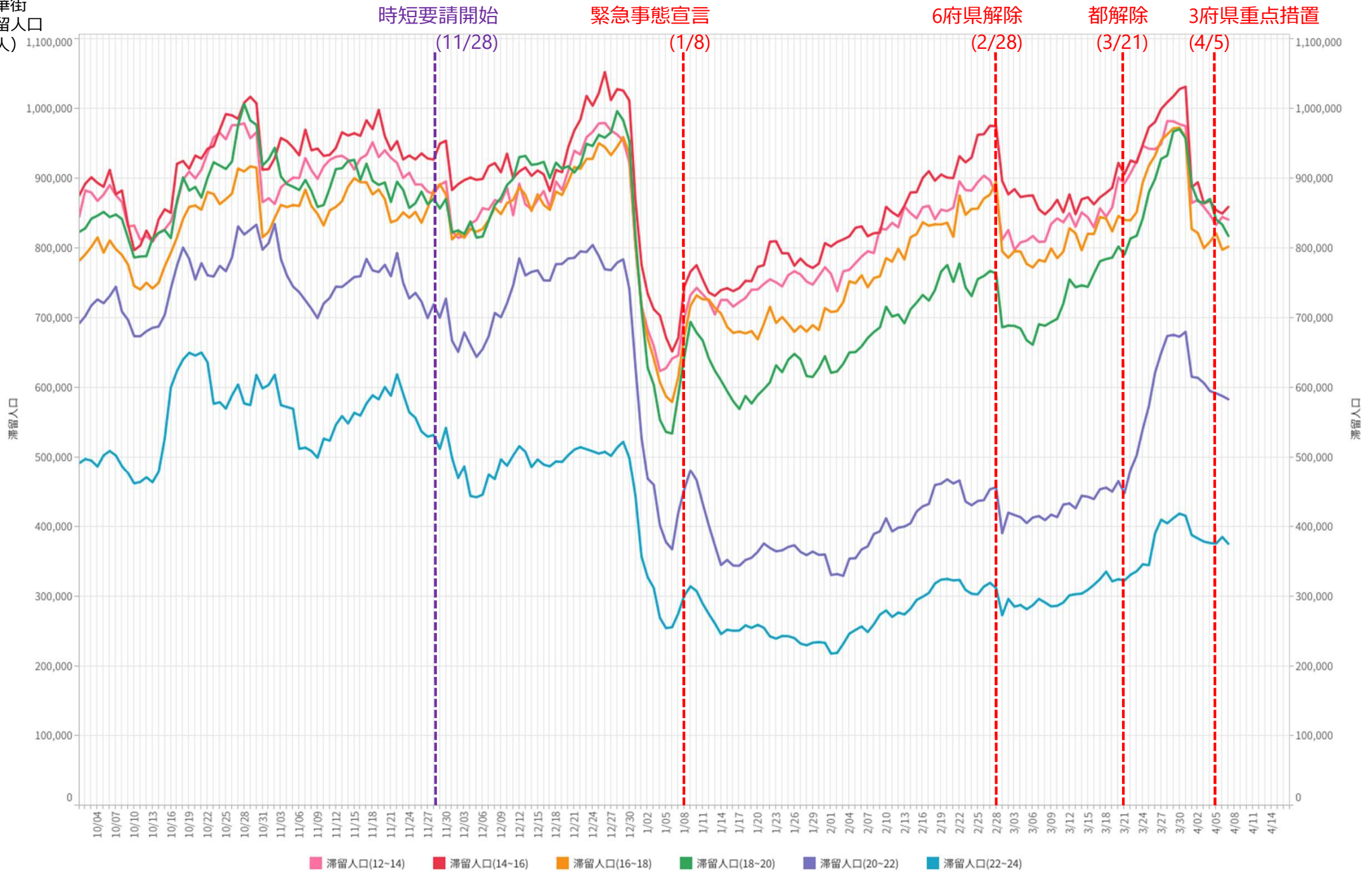
時間帯別主要繁華街滞留人口の日別推移：大阪（2020年10月1日～2021年4月7日）

繁華街
滞留人口
(人)

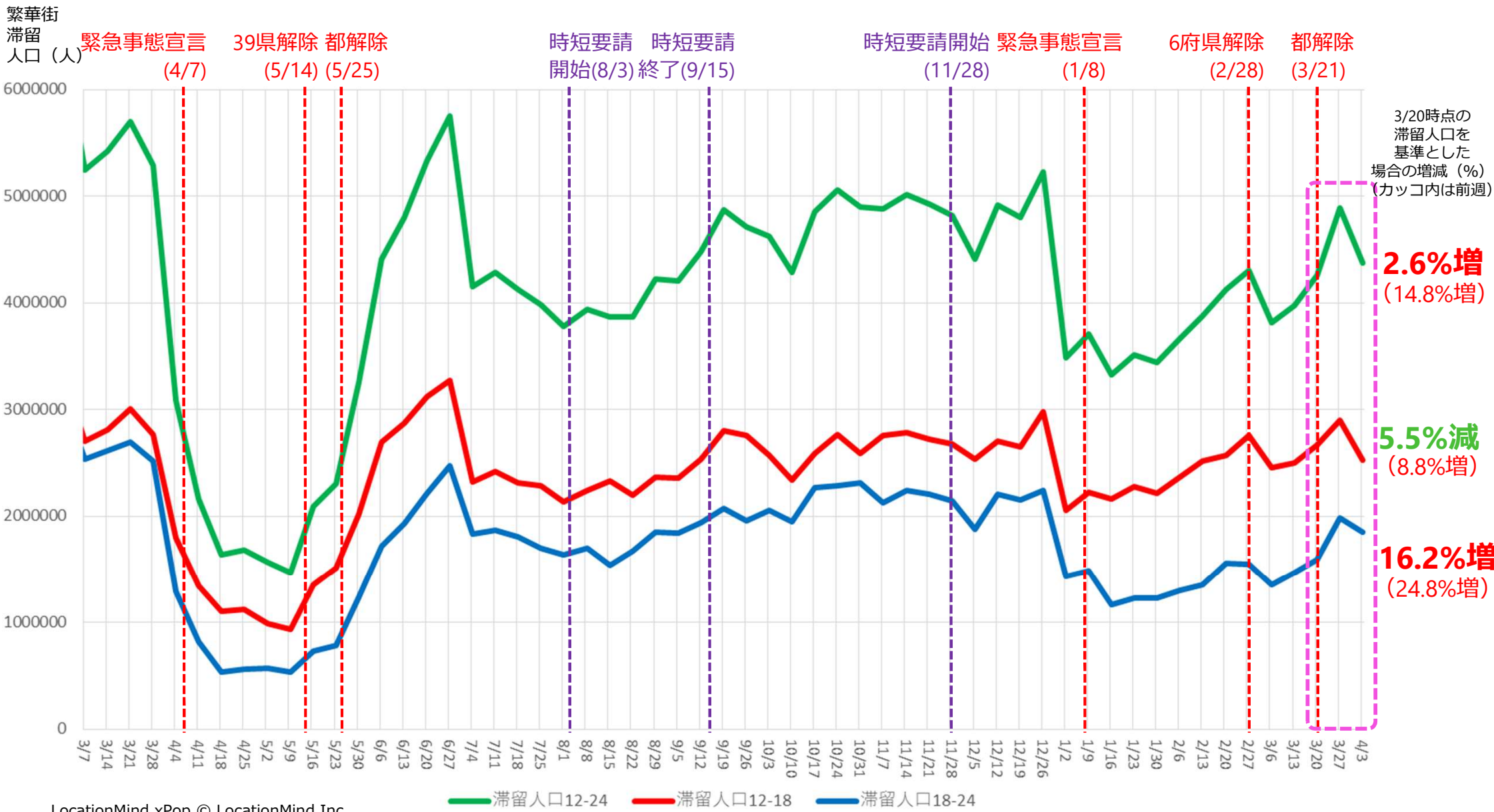


時間帯別主要繁華街滞留人口の日別推移：東京（2020年10月1日～2021年4月7日）

繁華街
滞留人口
(人)



時間帯別主要繁華街滞留人口の推移（2020年3月1日～2021年4月3日）

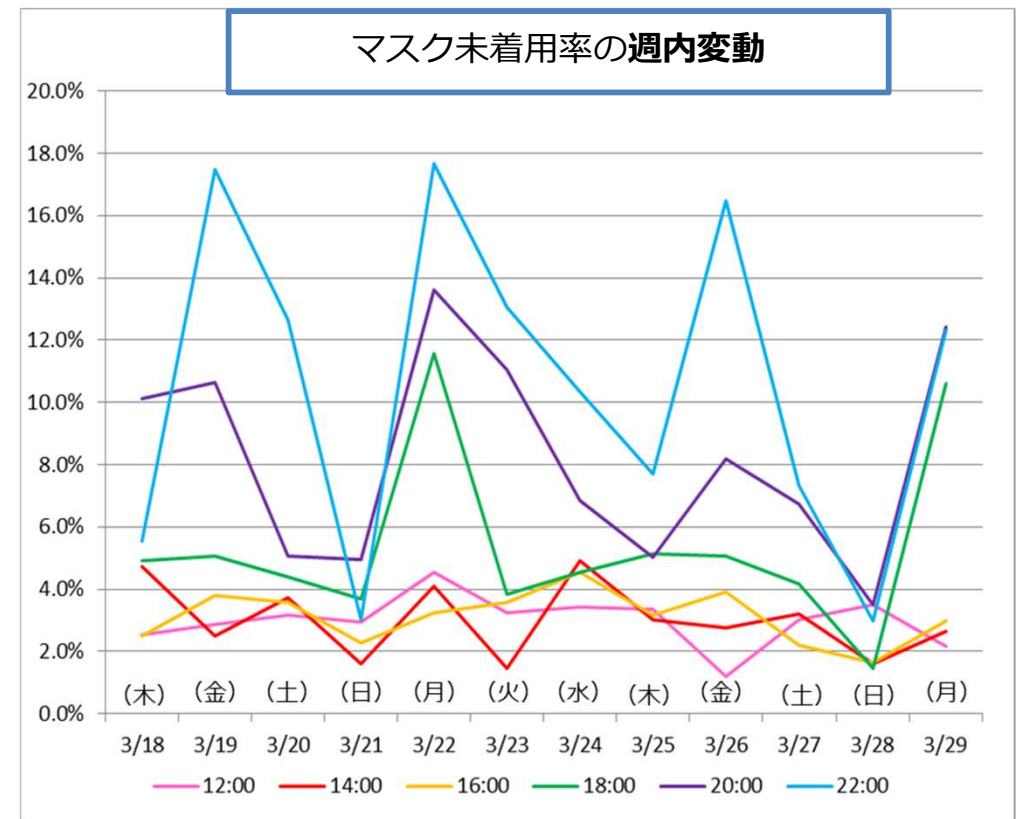
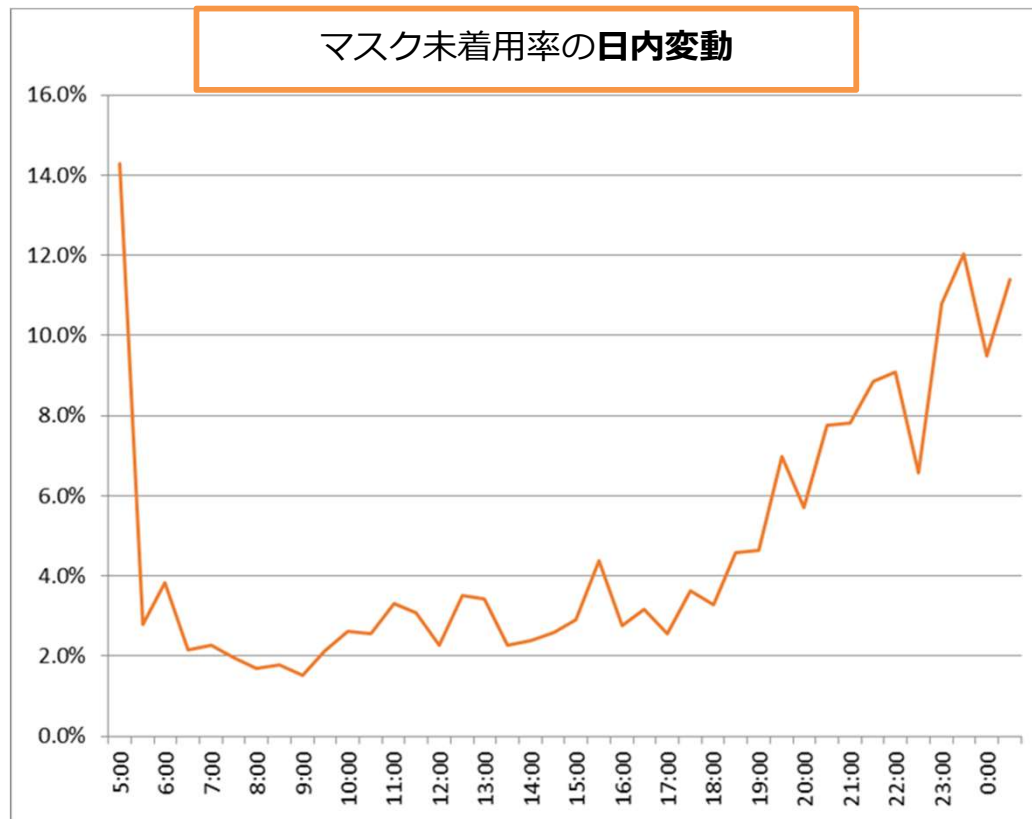


繁華街最寄駅のマスク未着用率調査：六本木駅におけるマスク探知システム実証実験

東京都医学総合研究所・社会健康医学研究センター

【目的】 感染拡大の一因となるコンプライアンスの低下、特に繁華街周辺を移動する人々のマスク着用状況を把握する

【方法】 マスク着用・未着用を検知するシステムを駅構内に試験的に導入。3月18日～3月29日の12日間（288時間）、定点観察（自動）によりマスク未着用率の**日内変動**、**週内変動**に関するデータを収集（N=35,058）。

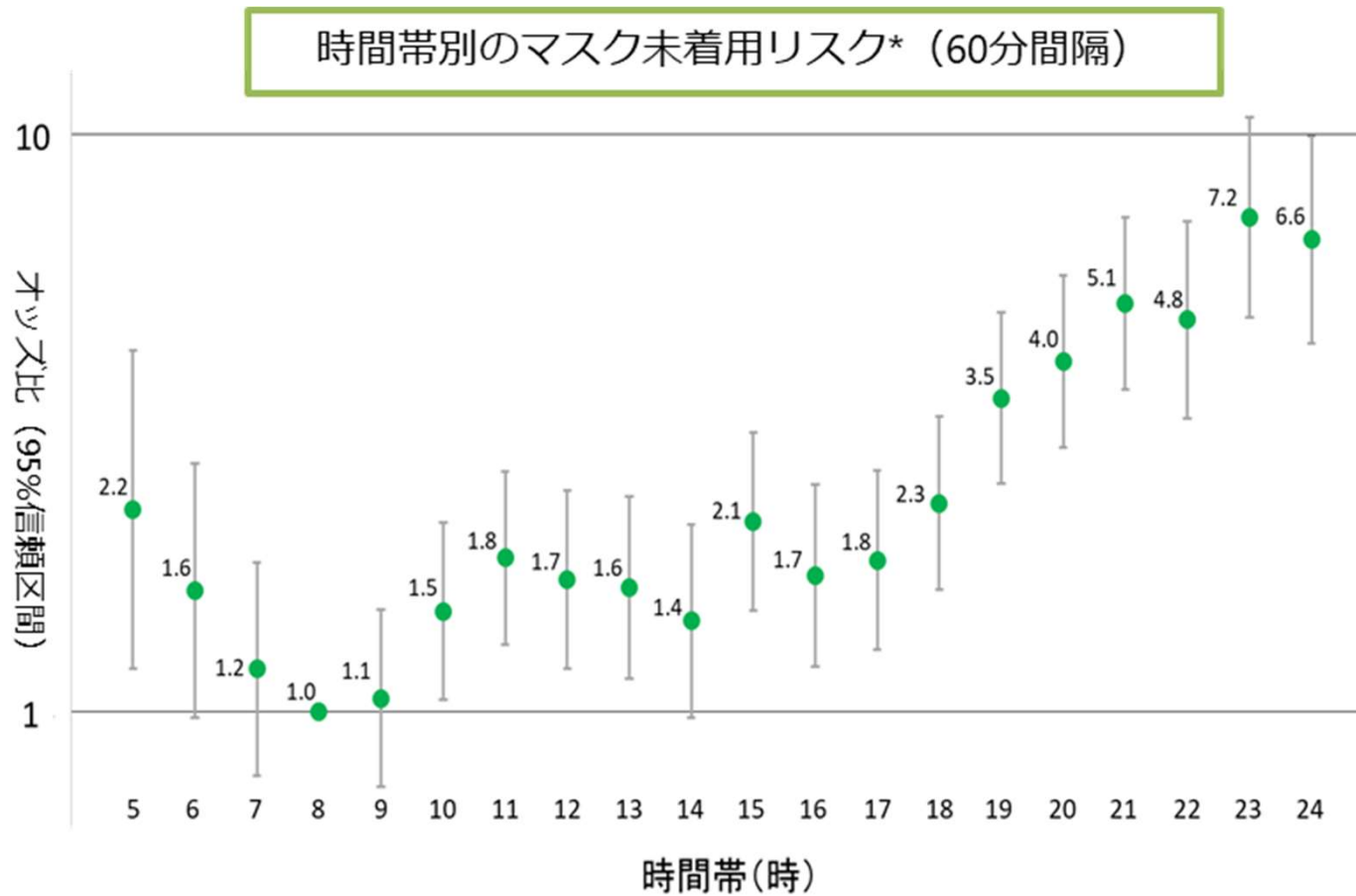


- 18時以降、終電時間が近づくとつれてマスクの未着用率は顕著に増加。朝8時台の未着用率が1.7%であるのに対し、20時台は6.7%、23時台では11.3%まで増加する。一方で、始発時間帯のマスク未着用率も高い。
- 観察期間が2週間未満と短期間の検証ではあるが、金曜日・月曜日の夜間帯のマスク未着用率が高い可能性がある。
- さらに継続的なモニタリングを行い、コンプライアンスが低下する時期・時間帯・場所を特定し、重点的な予防対策を講じる必要がある。

繁華街最寄駅のマスク未着用率調査：六本木駅におけるマスク探知システム実証実験

東京都医学総合研究所・社会健康医学研究センター

【参考資料】



* 8時台と比べた際のその他の時間帯におけるマスク未着用リスク

都内主要繁華街 滞留人口モニタリング 緊急事態宣言 解除後2週間の推移

- 宣言解除後 2 週目で繁華街滞留人口の増加が止まり減少に転じた。大阪府等での感染者数急増・まん延防止等重点措置適用のアナウンス効果が都内の人流にも影響した可能性。
- 現時点では急激な感染急拡大には至っていないものの、解除後1週間の急激な人流増加の影響が今後顕在化する可能性。
- 解除後急増した昼間滞留人口は先週から急激に減少し、宣言解除前の水準に戻りつつあるが、一方、リスクの高い夜10～12時の繁華街滞留人口は減少に転じてはいるものの解除前に比べると未だ高い水準にあり、引き続き警戒が必要。
- 繁華街周辺の夜間帯のマスク未着用率が日中に比べて高い可能性が示唆される。